

Title	【定年退職教授の履歴および主要業績】 佐藤眞一教授
Author(s)	
Citation	大阪大学大学院人間科学研究科紀要. 2022, 48, p. 259-263
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/86872">https://hdl.handle.net/11094/86872</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

**【定年退職教授の履歴および主要業績】**

さ とう しん いち  
佐 藤 真 一 教授



さとう しんいち  
佐藤 眞一 教授

昭和 62 年 3 月 早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学

昭和 62 年 4 月 (財) 東京都老人総合研究所 (現、東京都健康長寿医療センター研究所) 心理・精神医学部心理研究室研究員

平成 9 年 4 月 明治学院大学文学部助教授

平成 14 年 4 月 (留学) Max Planch Institute for Demographic Research 上級客員研究員 (平成 15 年 3 月まで)

平成 16 年 4 月 明治学院大学心理学部教授

平成 21 年 4 月 大阪大学大学院人間科学研究科臨床死生学・老年行動学研究分野教授

平成 22 年 4 月 大阪大学大学院医学系研究科附属ツインリサーチセンター兼任教授 (令和 3 年 3 月まで)

令和 3 年 4 月 大阪大学名誉教授 (予定)

佐藤眞一教授は、昭和 62 年 3 月早稲田大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程単位修得退学後、同年 4 月に財団法人東京都老人総合研究所の研究員として採用され、10 年間高齢者研究に従事した。平成 9 年 4 月に明治学院大学文学部心理学科助教授に採用され、平成 16 年 4 月に同教授に昇任した。その間、平成 11 年に埼玉医科大学から博士号を授与されている。また、平成 14 年から平成 15 年にかけてドイツの Max Planch Institute for Demographic Research に上級客員研究員として所属して研究を行った、平成 21 年 10 月 1 日に国立大学法人大阪大学大学院人間科学研究科に教授として着任し、令和 4 年 3 月 31 日限りで定年退職するものである。

この間、長年にわたって大阪大学の研究との教育進展に貢献してきた。佐藤教授の研究領域は、生涯発達心理学、心理老年学、老年学の幅広い領域に渡る。中心的な研究内容は、高齢者の心理学的研究と、認知症に関する心理学的研究であった。大阪大学着任までは定年退職に注目し、生きがいと幸福感を評価する尺度である対人志向性尺度、総合心理適応度尺度「寿限無」の開発や、aging に対する自覚に注目した主観年齢と年齢アイデンティティ、家族関係の変化の研究を行ってきた。大阪大学に着任後は孤立と孤独、孤高、知恵といった、近年関心が高まっている課題に取り組んできた。認知症の心理に関する研究は、実験室実験、質問紙を用いた調査研究だけではなく、実際に施設介護の現場に足を運び事例研究を並行して実施してきた。研究対象は認知症高齢者だけでなく、施設の介護職員のメンタルヘルスも視野に入れており、施設の見取りに関する研究は、学会だけでなく介護業界でも注目されている。特に、施設介護におけるパーソナルケア分析法と日常会話式認知機能評価 (CANDy) の開発成果は、大阪府に提供され、ホームページからダウンロード可能なパンフレットとなり活用され

ている。佐藤教授は、これまで多数の著作があるが、執筆した学術論文は127本である。また、著作は37編あるが、そのうち7編が翻訳され海外でも出版されている。大阪大学着任後に指導し、博士を取得した学生は（取得予定も含め）15名を数える。

学内では、大阪大学人権委員会委員、大阪大学ハラスメント相談員、人間科学研究科行動学系幹事教授、人間科学研究科研究倫理委員会委員長、人間科学研究科学生支援室長を歴任し大阪大学および人間科学研究科の運営面に貢献してきた。また、平成22年から現在に至るまで大阪大学大学院医学系研究科附属ツインリサーチセンター兼任教授、また、平成31年からは、大阪大学EDGEプログラム「認知症横断プロジェクト」。その後継として、令和2年から大阪大学社会ソリューションイニシアティブ（SSI）の基幹プロジェクト「一人ひとりの死生観と健康自律を支える超高齢社会の創生」の研究代表者として大阪大学と人間科学部・人間科学研究科の研究と教育を支えてきた。

学外の活動に関しては、学術面においてこれまで日本老年行動科学会会長、日本老年学会幹事、日本老年社会科学会理事、日本応用老年学会常任理事、日本老年臨床心理学会常任理事、日本認知症ケア学会評議員、日本心理学会代議員を務めている。また、*Geriatrics Gerontology International* 誌の Associate Editor、日本老年精神医学会編集参与、日本発達心理学会常任編集委員などを務めてきた。また、日本老年行動科学会第8回、第22回大会長、日本老年社会科学会第55回大会長、日本応用老年学会第11回大会長、日本老年臨床心理学会第2回大会長を務めた。また、日本学術会議特別研究員等審査会専門委員、国際事業委員会書面審査委員を務めている。平成25年には、日本老年行動科学会に対する貢献に対して大阪大学総長表彰を受けている。

社会貢献に関しては、日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団理事、大阪府社会福祉事業団顧問・理事、I For You Japan 副理事長、健康・介護コンシェルジュ協会理事長、福祉環境住環境アソシエーション理事、日本モンテッソーリケア協会理事、日本認知症ケア学会・認知症ケア専門士資格認定協会試験委員、文部科学省・厚生労働省・公認心理師試験委員、放送大学客員教授など、介護やケアに関わる啓発活動にも尽力してきた。このように同氏は、学会や学術機関の運営に多大な寄与と貢献をしている。

以上のように佐藤眞一教授は、研究、教育、運営だけでなく社会への貢献を通じて人間科学部・人間科学科の充実と発展に尽くだけでなく、わが国の老年学、心理老年学を牽引し、わが国の学術振興に大いに貢献した。

## 主 要 業 績

## 主要著書

1. 佐藤眞一編著 (2000)『介護カウンセリングの事例』一橋出版.
2. 佐藤眞一・大川一郎・谷口幸一編著 (2010)『老いとこころのケア—老年行動科学入門—』ミネルヴァ書房.
3. 佐藤眞一・高山 緑・増本康平著 (2014)『老いのこころ—加齢と成熟の発達心理学』有斐閣.
4. 佐藤眞一 (2015)『後半生のこころの事典』CCC メディアハウス.
5. 佐藤眞一 (2018)『認知症の人の心の中はどのようになっているのか?』光文社新書.

他 32 冊

## 主要学術論文

1. Sato, S. (1983) An investigation of anxietyprovoking situations among the aged. *Journal of Child Development*, 19, 513.
2. 佐藤眞一 (1994) 高齢者のいる家族の世代間関係：世代境界尺度の構造と関連要因，高齢者のケアと行動科学，1, 4757.
3. 佐藤眞一・下仲順子・中里克治・河合千恵子 (1997) 年齢アイデンティティのコホート差，性差，およびその規定要因：生涯発達の視点から，発達心理学研究，8, 8897.
4. Oba, H., Sato, S., Kazui, H., Nitta, Y., Nashitani, T., & Kamiyama, A. (2018) Conversational assessment of cognitive dysfunction among residents living in long-term care facilities. *International Psychogeriatrics*, 30, 87-94. DOI: 10.1017/S1041610217001740.
5. Toyoshima, A. & Sato, S. (2018) Examination of the effect of preference for solitude on subjective well-being and developmental change. *Journal of Adult Development*, 42, 236-243. DOI: 10.1007/s10804-018-9307-z.

他 123 編